

Let's

get eccentric!

Edith Cowan University
School of Medical and Health Sciences 教授
運動スポーツ科学部門ディレクター

講師

野坂 和則 氏

Ken Kazunori Nosaka

《プロフィール》

1959年(昭和34年) 埼玉県 生まれ

1981年 東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程保健体育科 卒業

1983年 東京学芸大学大学院教育学研究科保健体育専攻運動学講座修士課程 修了

1995年 横浜市立大学医学部より博士号取得

1984 -1995年 横浜市立大学文理学部体育医学教室 助手

1989 -1991年 マサチューセッツ州立大学運動科学部 研究員

1995 -1997年 横浜市立大学理学部環境理学科 専任講師

1997 -2004年 横浜市立大学理学部環境理学科 助教授

2001 -2004年 横浜市立大学大学院総合理学研究科 兼任助教授

2004 -2008年 Edith Cowan University, School of Exercise and Health Sciences 助教授

2008 -2014年 Edith Cowan University, School of Exercise and Health Sciences 教授

2009 -2012年 Edith Cowan University, Centre for Exercise and Sports Science Research センター長

2015年-現在 Edith Cowan University, School of Medical and Health Sciences 教授運動スポーツ科学部門ディレクター



日時

2018年

1月10日 (水)

17:00 ~ 18:30

場所

豊田キャンパス

14号館 2階

大会議室

骨格筋（以下、筋）は「動く」ことによってその形態と機能を維持し、変化させていく。「動く」ことは、筋が収縮（コントラクション）することによって可能になる。筋の収縮様式は、大きく静的なもの（等尺性）と動的なもの（等速性）に分類され、筋が発揮する力（筋力）と筋にかかる負荷との関係から見ると、前者では筋力と負荷が同じであり、筋の長さ（筋長）はほとんど変化しない。動的な筋収縮では、筋力が負荷に打ち勝ち筋長が短くなる場合「短縮性」と筋力より負荷が大きく、筋長が長くなる場合「伸張性」がある。どのように筋が動くかによって筋に生じる形態的、機能的変化は異なる。また、その影響は骨格筋だけにとどまらず、体全体のシステムに及ぶ。例えば、伸張性の筋収縮を主とした運動を継続していくと、血圧が減少し、インスリン感受性が向上し、血液中の中性脂肪が減少するが、これらは短縮性の筋収縮を主とした運動では起こらない。本講演では、伸張性筋収縮が主となる運動（伸張性運動）に関する最新の話題を提供し、伸張性運動の可能性について考察して頂きます。多くの学生・大学院生・教職員・一般の方のご来聴をお待ちしております。※申込不要